



腎臓病について

日本では人口の高齢化にともなって、腎臓病の患者さんが増えています。現在では約2000万人、成人の5人に1人がかかっているといわれています。

腎臓病は、初期にはほとんど自覚症状がなく、知らないうちに進行してしまう「沈黙の病気」です。初めのサインとしては、尿にたんぱくが出る「たんぱく尿」が見られ、その後、少しずつ腎臓の働きが落ちていきます。放っておくと、腎臓の機能が大きく下がり、最終的には透析が必要になる腎不全になることもあります。

また、腎臓が悪くなると、心臓病や脳卒中のリスクも高くなります。腎臓病は、健康診断で行われる尿検査や血液検査で簡単に見つけることができ、早めに対処すれば悪化を防ぐことができます。健診で異常が出たら、必ずかかりつけの医師に相談しましょう。

高血圧や糖尿病があると、腎臓病になりやすくなります。ふだんから塩分やカロリーのとりすぎに気をつけて、自分の腎臓を守りましょう。

山形県医師会常任理事 今田恒夫

11月14日は世界糖尿病デー (world diabetes day)

文翔館や上山城などが、シンボルカラーのブルーにライトアップされます。

